

富山大学五十年史

下 卷

題
字
押
田
雅
次

下 卷 目 次

第 部 部局編

理学部

第 1 章	理学部の歴史的背景	5
第 1 節	文理学部理学科の誕生と富山高等学校	5
第 2 節	文理学部発足時の理学科の概要	6
第 3 節	文理学部発足時の理学科の組織・形態	7
第 4 節	学生定員、入学者数（昭和24～27年） および卒業生数（昭和28～31年）	8
第 5 節	文理学部規程とカリキュラム	9
第 2 章	文理学部の整備（昭和28～41年）	12
第 1 節	五福地区への移転と教養部の分離	12
第 2 節	文理学部理学科の教官組織の変遷（昭和29～41年）	13
第 3 節	学生定員、入学者数（昭和28～41年） および卒業生数（昭和32～45年）	14
第 4 節	放射性物質による研究と放射性同位元素総合実験室	15
第 5 節	ガラス工作室	16
第 6 節	理学科における教育・研究活動	17
1	数学専攻（昭和24～39年）	17
2	物理学専攻	22
3	化学専攻	22
4	生物学専攻	26
5	地学専攻	29
第 7 節	文理学部規程（昭和29年5月14日）	30
第 3 章	理学部（理学科）の発展 その1（昭和42～51年）	31
第 1 節	教養部の設置	31
第 2 節	大学紛争	31
第 3 節	文理学部理学科の教官組織の変遷（昭和42～52年）	33
第 4 節	学生定員、入学者数（昭和42～51年）および卒業生数（昭和46～55年）	35
第 5 節	理学専攻科の設置（昭和46年）	36
第 6 節	低温液化室のあゆみ	36
第 7 節	理学科における教育・研究活動	40
1	数学科	40
2	物理学科	42
3	化学科	43
4	生物学科	49
第 8 節	文理学部規程（昭和42年）	52

第4章 理学部の発展 その2 (昭和52~平成4年)	54
第1節 文理学部の改組と理学部の発足	54
第2節 地球科学科の新設	55
第3節 理学研究科(修士課程)の設立	57
第4節 理学部の教育理念	58
第5節 理学部教官組織の変遷(昭和52~平成4年)	58
第6節 理学部学部委員会委員の変遷(抜粋)	61
第7節 学部学生定員、入学者数(昭和52~平成4年)	
および卒業生数(昭和56~平成8年)	62
第8節 大学院理学研究科の入学者数(昭和53~平成4年)	
および修了者数(昭和55~平成6年)	63
第9節 トリチウム科学センターの設立	63
第10節 富山大学廃液処理施設	65
第11節 学部・大学院における教育・研究活動	66
1 数学科	66
2 物理学科	75
3 化学科	78
4 生物学科	90
5 地球科学科	96
第12節 理学部規則(昭和52年5月2日制定)	102
第13節 理学研究科規則(昭和53年4月1日制定)	106
第5章 理学部の発展 その3 (平成5年以降)	113
第1節 教育改革(教養部の廃止)	113
1 検討の開始、大講座制移行の合意	113
2 新学科構想の提起と推進、「生命環境科学科創設の合意」	116
3 教育改革案の概算要求と成立 生物圏環境科学科誕生と大講座制移行	119
第2節 生物圏環境科学科の設置	121
第3節 理学部の教育理念	123
第4節 大学院理工学研究科博士課程設立	124
第5節 理学部教官組織の変遷(平成5~10年)と学科改組	126
第6節 教育改革に伴う人事異動	127
1 平成5年度における選考方法の改善	127
2 教員の異動状況と配置状況	127
第7節 理学部学部委員会委員の変遷(抜粋)	130
第8節 学部学生定員、入学者数(平成5~10年)	
および卒業生数(平成9年~)	131
第9節 大学院理学研究科の入学者数(平成5~10年)	
および修了者数(平成7~10年)	131
第10節 3年次編入学	132
第11節 学部・大学院における教育・研究活動	132
1 数学科	132

2	物理学科	138
3	化学科	142
4	生物学科	148
5	地球科学科	152
6	生物圏環境科学科	157
第12節	理学部の現状と展望	164
1	数学科	164
2	物理学科	164
3	化学科	167
4	生物学科	168
5	地球科学科	170
6	生物圏環境科学科	170
第13節	理学部規則（平成10年）	172
第14節	富山大学大学院理工学研究科規則（平成10年3月）	172

工学部

第1章	工学部創設への序章	183
第1節	高岡工業専門学校の創設のあゆみ	183
1	富山県における地場産業と殖産興業	183
2	富山湾工業地帯の完成と近代工業の多様化	184
3	富山県における工業教育機関	185
4	高岡高等商業学校の沿革	187
5	高岡高等商業学校から高岡経済専門学校へ	187
第2節	富山県の工業高専誘致運動	188
1	体制への移行と国の工業高専増設の機運	188
2	高岡経済専門学校の工業専門学校への転換申請	189
第3節	高岡工業専門学校創設	190
1	官立工業専門学校規程	190
2	官立工専の規則準則の通牒	191
3	高岡工業専門学校規則制定	191
4	第1回生の入学式を迎えて	193
第4節	決戦教育措置 戦局の終焉	195
1	決戦教育措置要綱と学校授業の停止	195
第5節	第二次大戦後の混迷と学園の復興	196
1	学校再開と陸海軍諸学校学生の転入	196
2	高岡工業専門学校規則の制定	197
3	高岡工業専門学校規則	197
4	高岡経済専門学校の復活運動と工業専門学校存続運動の展開	200
5	金属工業科廃止問題と復活運動	203
第6節	工業大学への昇格運動と新制大学の発足	204
1	高岡工業大学への昇格運動	204
2	変転する大学構想	208

3	一府県一大学方針の決定	211
第2章	工学部の整備と拡充	214
第1節	富山大学の設置と新生工学部のあゆみ	214
1	大学設置委員の現地調査	214
2	富山大学設置認可	215
3	富山大学学則の制定	215
4	富山大学工学部規程	217
5	工学部中川キャンパス	219
6	草創期の厚生・補導	221
第2節	工学部の学科・講座の構成	222
1	工学部草創期の3学科教官と構成の経緯	223
2	各学科における研究の動向（昭和39年ころ）	224
第3節	機械工学専攻の併設から機械工学科の設置へ	226
1	機械工学科の増設の経緯	226
2	機械工学科の設備	228
第4節	生産機械工学科の設置	228
1	生産機械工学科新設の背景	228
2	研究棟の新設	230
第3章	工学部発展への胎動と苦悩	231
第1節	各学科の構成と新学科の増設	231
1	電気工学科	231
2	工業化学科	232
3	金属工学科	237
4	機械工学科	238
5	生産機械工学科	238
6	化学工学科の新設	243
7	電子工学科の新設	245
第2節	大学院工学研究科の設置へ向けて	246
1	電気工学専攻	246
2	工業化学専攻	246
3	金属工学専攻	247
4	機械工学専攻	248
5	生産機械工学専攻	249
6	化学工学専攻	249
7	電子工学専攻	250
第3節	大学紛争による混乱と再建	252
1	富山大学における紛争の発端	252
2	大学紛争の工学部への波及と終焉	256
3	工学部における紛争の収拾	257
第4節	工学部五福移転問題の停滞と進捗	258

1	工学部移転のあゆみ	258
第4章	工学部五福移転の達成と高次工学教育研究機関への展開	261
第1節	五福キャンパスへの統合へのあゆみ	261
	工学部移転統合の経緯	261
1	富山大学の五福地区への集中	261
2	工学部移転問題の発端	262
3	工学部移転をめぐる諸問題	262
第2節	工学部新校舎竣工と移転	266
第3節	工学部校舎の配置	267
第4節	大講座制への移行	270
1	電子情報工学科の誕生	270
2	機械システム工学科の誕生	271
3	物質工学科の誕生	273
4	化学生物工学科の誕生	274
第5節	現在の学科と講座の構成	276
1	電気電子システム工学科	276
2	知能情報工学科	277
3	機械知能システム工学科	278
4	物質生命システム工学科	280
第6節	教養部の廃止に伴う教官の受け入れと学科の改組	282
第7節	工学研究科博士前期後期課程の設置	283
第8節	理工学研究科博士前期後期課程の設置	284
第5章	研究・教育活動と学生・院生の動向	285
第1節	研究・教育活動の変遷	285
1	研究活動の変遷	285
2	教育活動の変遷	294
第2節	入学および卒業の状況	295
1	入学の状況	295
2	卒業の状況	298
第3節	外国人留学生の増加	299
1	正規学生（院生を除く）について	299
2	正規学生以外（研究生、科目等履修生、聴講生）の留学生について	299
3	留学生センター・留学生課の新設	300
4	国際交流会館	300
第4節	推薦入学制の導入	301
第5節	高専・短大からの編入の制度化	303
1	3年次編入学について	303
2	3年次編入学の従来の実績	304
3	養成すべき人物像と需要の見通し	304
第6節	教養部廃止とカリキュラムの変遷	309

第7節 学生生活あれこれ	311
第6章 工学部の運営組織と諸施設の充実	313
第1節 教授会、各種委員会	313
1 富山大学工学部規則	313
2 富山大学工学部教授会規程	314
3 富山大学工学部講座運用内規	315
4 富山大学工学部核燃料物質計量管理規則	315
5 富山大学工学部安全委員会内規	316
6 富山大学工学部自己点検評価委員会内規	316
第2節 研究科委員会	317
1 富山大学大学院理工学研究科委員会規則	317
2 富山大学大学院理工学研究科博士前期課程工学部会内規	318
第3節 図書館工学部分館から工学部専門図書室へ	319
1 移転決定までの経過	319
2 工学部図書分館の移転計画	320
3 移転に伴う工学部図書分館ならびに工学専門図書室の運営について	320
第4節 工学部実習工場の充実	321
1 実習工場の概要	321
2 施設の整備状況の推移	322
3 設備の整備状況の推移	322
第7章 仰岳会のあゆみ	324
第1節 工学部同窓会の発足	324
第2節 工学部の五福移転問題	324
第3節 同窓会の組織強化に向けて	328
第4節 工学部同窓会の拡張	329

廃止された部局

1 薬学部

第1章 前 史	335
第1節 富山における薬学教育の芽生えと薬剤師教育	336
第2節 共立富山薬学校の創設	337
第3節 富山市立薬学校と廃校の危機	338
第4節 市立富山薬業学校として再建	339
第5節 市立富山薬業学校の県立移管	340
第6節 富山県立薬学専門学校の開設と官立移管	340
第7節 官立富山薬学専門学校の開校から終戦まで	342
第2章 黎明期	344
第1節 富山薬専校舎の戦災復興	344
第2節 薬学専門学校から大学への転換	345

第3節	大学移管に伴う専門学校存続の経過措置	346
第3章	薬学部の整備・充実（奥田キャンパス時代）	347
第1節	学部教育課程の変遷	348
第2節	入学者選抜学力検査教科・科目の変遷	352
第3節	教育研究附属施設	353
第4節	教育研究組織と研究活動	354
第5節	公開講座等	355
第6節	同窓会	356
第4章	薬学部の拡充・発展（昭和38年から富山医薬大への移行まで）	358
第1節	五福キャンパスへの移転	358
第2節	薬学・製薬化学2学科制	360
第3節	大学院薬学研究科（修士課程）および和漢薬研究施設の設置	361
第4節	研究活動	363
第5節	薬学部創立75周年記念	367
第6節	薬学部と学生運動	367
第5章	医科薬科大学の創設	369
2	和漢薬研究所	
第1節	和漢薬研究施設棟の新嘗	374
第2節	和漢薬研究所への昇格	375
第3節	研究活動	375
3	教養部	
第1章	教養部の設置	378
第1節	大学と一般教育	378
第2節	教養部設置の機運	379
第3節	教養部の実現	379
第2章	教育体制の推移	381
第1節	授業科目	381
第2節	教官数と学生数	383
第3節	専門移行とその条件	384
第4節	教育施設（校舎）	385
第3章	学生問題への対応	391
第1節	基本的体制	391
第2節	大学紛争と教養部	392
第3節	紛争の余波	395
第4節	教授会と学生自治会	396

第4章 教養部将来計画とその終焉	398
第1節 教養部の自治権	398
第2節 将来計画（学部化への試み）	400
第3節 教養部の廃止	403
4 経営短期大学部	
第1章 総論	408
第1節 背景となった日本の経済	408
第2節 夜間短大設置の要請	411
第3節 教官および事務官	413
第2章 勤労学生	419
第1節 入学試験	419
第2節 授業科目（カリキュラム）	421
第3節 就業	424
第3章 支持団体	426
第1節 経営短大後援会	426
第2節 学友会	427
第3節 越嶺会（同窓会）	428
第4章 改組	429
第1節 高岡移転問題	429
第2節 発展的改組	430
附属図書館	
第1章 附属図書館の沿革	439
第1節 大学設置前の図書館	439
第2節 大学の発足と図書館	439
第3節 本館・分館の統廃合	439
第2章 施設・設備	443
第1節 五福地区に図書館本館を竣工	443
第2節 新図書館の建設	443
第3節 本館の増築・改修	445
第3章 管理運営	446
第1節 事務組織の変遷	446
第2節 附属図書館商議会の設置	448
第4章 図書館業務	451
第1節 閲覧サービス	451

第2節	参考業務サービス	451
第3節	附属図書館専用電算機	452
第4節	情報検索サービス	453
第5節	ビデオ・ライブラリー・システムの開始	455
第6節	図書館WWWサービスの公開	455
第5章	図書館資料	457
第1節	蔵書	457
第2節	大型コレクション	457
第3節	視聴覚資料	458
第4節	留学生資料	458
第5節	貴重資料	458
保健管理センター		
第1章	沿革	465
第1節	センター設置に至るまでの状況	465
第2節	センターの設置	465
第2章	組織と運営	467
第1節	組織	467
第2節	運営機構	467
第3章	施設と運営	468
第1節	施設	468
第2節	設備	468
第4章	事業	469
第1節	相談・広報事業	469
第2節	調査・研究事業	470
第3節	その他の事業	471
第5章	将来展望	472
水素同位体機能研究センター		
第1章	沿革	475
第2章	運営機構および研究組織	476
第1節	運営機構	476
第2節	研究組織	477
第3章	施設および設備	477
第1節	施設	477

第2節 設備	478
第4章 教育および研究活動	479
第1節 教育活動	479
第2節 研究活動	479
第5章 将来展望	480
地域共同研究センター	
第1章 設置の経緯	485
第2章 地域社会への窓としての活動	486
第3章 設備の充実と建物の増築	488
総合情報処理センター	
第1章 沿革	493
第1節 歴代センター長の足跡	493
第2節 本学最初の電子計算機の導入まで	494
第3節 計算センター発足当時から中後期	495
第4節 中型計算機の設置と計算機センターへの改組	496
第5節 情報処理センターの設置	497
第6節 富士通からIBMへの移行	497
第7節 汎用コンピュータからPCへ	498
第8節 全学情報処理教育の開始	498
第9節 キャンパス情報ネットワーク・システムの整備とインターネット ...	499
第10節 WWWによるインターネットの爆発的普及	500
第11節 総合情報処理センターの設置	500
第2章 運営組織とスタッフ	502
第1節 運営組織の変遷	502
第2節 歴代委員とスタッフ	502
第3章 施設および計算機システムの変遷	506
第1節 計算センター時代	506
第2節 計算機センター時代の施設と計算機システム構成図	508
第3節 情報処理センター時代の施設と計算機システム構成図	511
第4節 総合情報処理センター情報システム構成図	522
第4章 業務サービスおよびその他の活動	530
第1節 研究利用のための情報処理サービスの変遷	530
第2節 教育利用のための情報処理サービスの変遷	530

第3節	業務利用のための情報処理サービスの変遷	530
第4節	大学統合業務情報システム導入と運用	530
第5節	インターネットおよびキャンパス情報ネットワークの運用	530
第6節	アプリケーション・プログラムの開発	531
第7節	データベースの構築と蓄積	532
第5章	研究・教育・業務支援活動	533
第1節	研究支援活動	533
第2節	教育活動支援	533
第3節	業務活動支援	533
第4節	地域社会への活動	534
第5節	これからのサービスと諸活動の指針	534
生涯学習教育研究センター		
第1章	沿革	537
第1節	センター設置に至る経過	537
第2節	センターの発足	537
第3節	センター発足以降	538
第2章	組織・運営	539
第3章	センター事業	540
第4章	センターの研究活動	541
第5章	今後の展望	541
留学生センター		
第1章	留学生センターの設置	545
第1節	設置に至るまでの状況	545
第2節	センター設置準備委員会	548
第3節	センターの設置	548
第2章	留学生センターの組織と運営	549
第1節	組織	549
第2節	センター運営委員会	549
第3章	留学生センターの施設と設備	550
第1節	施設	550
第2節	センターの設備	550

第4章 留学生センターの業務	551
第1節 日本語研修コース	551
第2節 日本語課外補講	551
第3節 留学生の指導相談	552
第4節 国際交流事業	552

事務局・学生部

第1章 事務局	557
第1節 所在地・建物の変遷	557
第2節 事務組織の変遷	557
第3節 大学の諸行事等	558
第4節 財政・その他	558
第2章 学生部	560
第1節 学生部の変遷	560
第2節 学生の課外活動	560
第3節 学生の福利厚生	568
第4節 奨学制度	570
第5節 就職	573
第6節 留学生関係業務の変遷	576

第 部 資料編

1 沿革図	580
2 沿革	582
3 歴代主要役職員	586
(1) 歴代学長一覧	586
(2) 歴代部局長等一覧	586
(3) 歴代共同利用施設等の長一覧	591
(4) 歴代評議員一覧(各学部および教養部の選出評議員)	592
(5) 歴代事務局長一覧	598
(6) 歴代部・課長等一覧	599
(7) 歴代事務長一覧	602
4 名誉教授一覧	605
5 組織図	608
6 教職員定員の推移	609
7 歳入歳出変遷表	610
(1) 歳入決算額の推移	610
(2) 歳出決算額の推移	610
8 土地および建物面積	611
(1) 昭和24年5月31日当時の土地および建物面積と所在地	611

(2) 土地および建物面積	612
(3) 富山大学口座の敷地取得経緯	613
(4) 富山大学課外活動施設地口座の敷地取得経緯	614
(5) 富山大学教育学部附属学校口座の敷地取得経緯	614
(6) 富山大学教育学部農場実習地口座の敷地取得経緯	615
(7) 富山大学学生寄宿舍口座の敷地取得経緯	615
(8) 富山大学自然観察実習センター口座の敷地取得経緯	615
(9) 富山大学奥田宿舍口座の敷地取得経緯	616
(10) 富山大学五艘宿舍口座の敷地取得経緯	616
(11) 主な建物の整備経緯	617
9 学部別入学定員の推移一覧	619
10 外国人留学生受け入れ状況	624
11 年度別卒業生数および修了者数	630
12 学部別卒業生および研究科別修了者の進路状況	634
13 科学研究費補助金採択状況	640
14 外部資金の受け入れ状況の推移	642
15 在外研究員・内地研究員派遣人数調	643
16 民間等との共同研究実施件数一覧	644
17 富山大学附属図書館蔵書の推移	645
執筆者一覧	646
編集後記	650

上巻内容項目

発刊のあいさつ 富山大学長 時 澤 貢

第 部 総説編

- 第 1 章 富山大学創立の経緯から開学15周年まで
- 第 2 章 富山大学の発展 その 1 昭和40年～昭和45年
- 第 3 章 富山大学の試練と模索 昭和45年～昭和54年
- 第 4 章 富山大学の発展 その 2
昭和54年～平成11年
- 第 5 章 入試制度の変遷
- 第 6 章 富山大学の現状と将来

第 部 部局編

人文学部

- 第 1 章 富山高等学校
- 第 2 章 文理学部時代
- 第 3 章 文理学部改組から人文学部設置へ
- 第 4 章 人文学部の発展期
- 第 5 章 各コースの沿革と現在

教育学部

- 第 1 章 教育学部の発足
- 第 2 章 学部組織の整備（昭和30年代）
- 第 3 章 学部の模索と充実（昭和40年代）
- 第 4 章 学部の発展（昭和50年代）
- 第 5 章 学部の発展（昭和60年代～）
- 第 6 章 学部の改組と展望
- 第 7 章 附属教育実践研究指導センター
- 第 8 章 附属学校園
- 第 9 章 大学院教育学研究科修士課程

経済学部

- 第 1 章 官立高岡高商の設立から転換まで
- 第 2 章 経済学科としての復活と経済学部への昇格
- 第 3 章 経済学部の充実（第 1 発展期）
- 第 4 章 学部紛争と単位訴訟
- 第 5 章 経済学部の再建と発展（第 2 発展期）
- 第 6 章 経済学部興隆の新展開（第 3 発展期）